

地域医療機関の連携で重症化防ぐ

チーム香川は、香川大学医学部や県、県医師会などで結成した糖尿病克服プロジェクトチームです。市民公開講座や世界糖尿病デーイベントで糖尿病に関する情報を発信しているほか、各地域の医師を集めて開催する勉強会や医療ITの活用などで糖尿病治療のレベルアップを図っています。

15年から、県内では「K-MIX（かがわ遠隔医療ネットワーク）」と呼ばれる、ITによる全県的な医療連携が導入さ

できることから始めよう 気・軽・に・運・動

- ・近くの用事は車や自転車を使わず歩く
- ・ガーデニングなど趣味の時間を持つ
- ・昼休みの散歩を習慣にする
- ・ラジオ体操をする
- ・3階までは階段を使う
- ・洗車や草抜きなどで体を動かす
- ・子どもと遊ぶ
- ・ペットの世話をする
- ・1日1,000歩多く歩く
- ・買い物をするとき、車を入り口から遠いところに止める

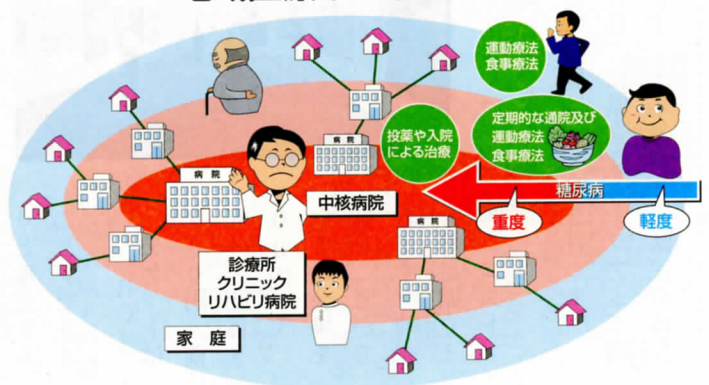


横井さん

れています。カルテや画像など治療に必要な患者のデータを電子化し、地域の基幹病院や診療所、検査機関で共有できるシステムで、現在110の医療機関が参加しています。システムが普及を図る、香川大学医学部附属病院医療情報部の横井英人教授は「K-MIXは他県に先駆けたシステムです。かかりつけ医と専門医をつなぐことで、地域医療の向上が期待できます。」

医療機関で積極的に活用してもらいたい」と話しています。この医療ネットワークを生かして、糖尿病の治療に特化したものが「糖尿病地域連携クリティカルパス（診療計画書）」です。糖尿病患者

中核病院を中心とした地域医療ネットワーク



の検査項目や結果、治療内容の電子データを医療機関で共有できるほか、食事や運動療法の指導内容も一覧にまとめることができます。診療計画をプリントして患者に提示することも可能です。「長期になると、途中で治療を断念してしまう人もいますが、数値や経過が目に見える」とやる気も出てきます。診療計画書を共有すれば、かかりつけ医で日常受診、基幹病院で定期受診と症状に合わせた治療がで

きます」

と、同病院糖尿病センター



村尾さん

の村尾孝児教授。主治医が複数になると考えられることから、異常の早期発見につながり、よりきめ細かく対応でき、合併症や重症化の防止が期待されます。現在試験運用中で、チーム香川は2年後の本格運用を目指しています。

まずは関心持つて

糖尿病は食事や運動で悪化を防ぐことができても、治療はしません。自分自身や家族の健康のためにも、まずは糖尿病に関心を持つて生活習慣の見直しを。今よりも食事に野菜を多く取り入れる、できるだけ階段を使うなどできることから始めてみましょう。県民一丸となって、「糖尿病ワースト」脱出へ。

問い合わせ先

健康福祉総務課

0871-83213273